



時は去り 時は来る。風よ

その砂丘が米軍の砲弾試験場として接収されることが1952(昭和27)年に決まり、六つの集落が追い出された。兵舎や弾薬庫、砲弾の行方を確認する観測所などが建てられ、女たちの行商の足となった鉄路に、砲弾や軍用の生活資材を積んだ貨車が走った。

← 1面から続く
焼けた砂の熱さがじりじりと伝わった。それでも女たちは座り込みを続けた。「自分たちが村を守らんなら」。朝鮮戦争のただ中、北陸鉄道社員だった杉村竹子さん(77)はそんな思いで内灘闘争に加わった。まだ20歳だった。半世紀余り前、内灘村は砂丘と防風林が広がり、石川県内で最も貧しいといわれた村だった。男は出稼ぎに行き、女は地引き網で取れたイワシやイカを入れたかごを担いで浅野川線の列車に乗り、金沢まで行商に出た。鮮魚のにおいがたちこめる車内で弁当を広げ、乗務員におむすびをわけた。

総額22億4千万円に上った補償金(「内灘町史」)で道路が舗装、砂丘が開拓され、内灘駅を中心に住宅整備が進みきっかけになった。村から町になり、人口は闘争時の4倍になった。

翌年6月と7月、北陸鉄道労組は2回にわたって米軍の物資輸送を拒否してストを実施。「本当に応援してくれるなら、アメリカの物資を運ぶな」。試験場内に座り込む「村のかあちゃん連中の声がかきかきやう」と、当時の同労組書記長・金岩外雄さん(83)は振り返る。米軍はストをきつかけにトラック輸送に切り替えた。「補償を得るため試験場を受け入れよう」と考える賛成派の村民も増え、村を二つに引き裂いた。57年3月、米軍は試験場を返還し、闘争は収束した。「平和を勝ち取ったと言う人もいるが、わたかまりを生んだだけだとする人もいる。今も一概に闘争を評価できません」。内灘町教育委員会の竹村文子さん(57)は話す。



①「ありがとうございました」。通学の小学生たちが、運転士に大声でお礼を言い降りていった＝金沢市
②今も残る米軍の射撃指揮所だった建物
③海岸沿いの砂丘には、風紋が刻まれていた＝いずれも石川県内灘町



鉄ちゃんの聞きかじり

北陸鉄道浅野川線はすべての電車が各駅停車。北鉄金沢駅から乗車して四つ目の「割出駅」は全国で、あいうえお順で最後の駅名だ。「駅名事典」(中央書院)によると、1番最初に登場する駅名は「あいおい」と読む「相生駅」(兵庫県と岐阜県の2駅)と「相老駅」(群馬県)の計3駅ある。

浅野川線の急行は06年のダイヤ改定で廃止された。半数の6駅に停車し、所要時間は各停より

かつて海側に夏季限定駅

り4分短いだけの13分だった。粟ヶ崎駅手前にかかる橋は、1929(昭和4)年に完成。時速15kmで徐行運転する。「ゆっくり走るの、沿線でシャッターチャンスが多い」とカメラ好きや鉄道ファンに好評だ。

かつては終点の内灘駅からさらに海側に夏季だけ営業する粟ヶ崎海岸駅があり、海水浴客を運んだ。海水浴場が金沢港の整備で閉鎖され、内灘-粟ヶ崎海岸駅間も74年に廃止された。



かつて海水浴客でにぎわった海岸では、つりや水上バイクを楽しむ人の姿が見られた＝石川県内灘町

文 角谷 陽子
写真 寺脇 毅

プレゼント

「みつばちの詩工房」(金沢市)の「柚子みつ」300mlリットル入り(1730円)を10人に。水やソーダで約5倍に薄めるとドリンクとして味わえる。

応募は、はがきに住所、名前、希望商品、記事の感想をお書き添えの上、〒530・8064 郵便事業会社大阪支店私書箱67号 朝日新聞「ぶらっと沿線紀行」係へ。7月3日必着。

探索コース

内灘大橋まで、内灘駅から北陸鉄道バスで約10分、町のコミュニティーバスで約25分。たもとは河北潟や金沢の景色を一望できる道の駅「内灘サンセットパーク」があり、近くの牧場の牛からしぼった牛乳と、特製の「はちみつソフトクリーム」が楽しめる。橋を渡ると町の歴史民俗資料館「風と砂の館」(入館料一般200円、小中学生100円)。

◆ぶらっと沿線紀行は、100回目を迎えました。これを記念し読者の皆様からの反響が多かった10回分の写真にあわせて、担当カメラマンが思い出を語るスライドショーが、アサヒ・コム(<http://www.asahi.com/kansai/photo/slide/>)で見られます。